

裏磐梯の産業遺産

北塩原村にあった特異な土木遺産について

明治から昭和の初めにかけて日本の近代化を支えた土木遺産や産業遺産は村内にいくつか存在しますが、その中に珍しい土木遺産がありましたのでご紹介します。

大正の初期に、猪苗代湖水系の水を水力発電に使用し東京への送電が始まりましたが、当初日橋川経由で日本海へ流れ出ている水も安積疏水などにより郡山側へも流れ出ることにより、猪苗代湖の水位の安定が求められるようになりました。

そこで猪苗代湖の水源としての裏磐梯の檜原湖、小野川湖、秋元湖の水量を安定的に維持するために貯水的設備として、水門、水路、堰堤などの工事が大正中頃から行われ、その一つとして大正末期に秋元湖の堰堤・水門の工事が完成しましたがこの工事の資材の運搬用に長瀬川に橋を架けました。

この橋が、土木学会により土木遺産として指定され、2005年に発行された「近代土木遺産2800選」のリストに次のように記されています。

記

名称	秋元橋
ふりがな	あきもと
区市町村	(耶麻)北塩原村
付帯情報	一般道(??) / 長瀬川
形式	鋼PG(英製、下曲線、上路)
諸元	長32m S12.8m (g+G+g)
完成年	明29→大正前期に転用
ランク	C
評価情報	製作 クラベンブラザース社(英) クレーンガーダーからの転用(特異な例) 立派な銘板(注) 床板 高欄は改修
出典	紅林章央 街道web 小西純一
更新	2006.12.28 2007.6.25

この橋を架けるにあたり、使われた橋桁が特別なものでした。近代化が進んでいた明治期に日本のどこかの工場で使われていらなくなった天井クレーンのガーダ部を橋桁として流用したものです。

この天井クレーンは、1896年（明治29年）の英国製で橋桁になっても桁の中央に大きな銘板がついていました。銘板には、「クラベンプラザーズ社（マンチェスター） 25トン 1896」とあります。土木学会は日本の近代化に貢献した天井クレーンのガーダを本来とは違う使い方ですがうまく利用して残っていたことを評価（特異な例）し遺産として指定したのだと思います。しかし長い間（90年以上）使用されて老朽化が進み（実際には橋上の路盤や手すりは傷んでいましたが橋桁はほとんど傷んでいるようには見えていませんでした）平成29年架け替えが決まり、平成30年3月で新しい橋に生まれ変わりました。橋の所有者は東京電力でしたが数年前に村が東京電力から譲り受け村の物になっていました。本来ならば橋ごと保存できればよかったのですが橋桁（クレーンガーダ）そのものの保存もままならず銘板だけを外して保存することが出来ました。現在この銘板は建設課にて保管しています。今後この銘板を使って橋の紹介が出来たらと思っています。

2018年11月